

近藤 正美 議員

浅羽支所の 今後の利活用は

問 支所の利活用に関する庁内検討の進捗状況はどうか。

答 検討会の議論では、浅羽地域の活性化を図るための支所機能を維持しつつ、多くの市民が訪れたいなる施設とすることや、支所周辺のメロウプラザや各文化施設との回遊性を高めることが重要であるとの認識に至っている。

問 美術館や児童館など文化的施設としての活用はどうか。

答 文化政策をより充実していく必要があるという認識にたち、市民が芸術に触れる機会をつくり、文化度を高める機能を備えることは重要な検討事項の一つである。この場所がより魅力的で、わくわく感を持つて訪れたいなる機能を有する人づくり・地域づくりの拠点施設となるよう検討を重ねていきたい。



浅羽支所

日本一健康文化都市への まちづくりは

問 医療・退院から在宅・介護への橋渡しで、医療機関とどう連携を図っていくか。

答 医療と介護関係者への情報共有や研修を実施して多職種連携の意識浸透を図り、在宅医療を実施する医療機関を増やして、退院後も患者と家族が安心して在宅での療養生活が送れるよう体制を整えていきたい。

森杉 典子 議員

若年性認知症への 支援の取り組みは

問 若年性認知症の発症年齢の平均は51歳で、一家の生計を支えている人が多く、休職や退職により経済的に困窮する可能性もあり、本人や家族への影響も大きい。本市の若年性認知症への支援の取り組みは。

答 総合健康センターの総合相談窓口で、保健師・看護師等の専門職が相談を受け付ける体制をとっている。内容に応じて医療機関や地域包括支援センターなどの関係機関と連携をとっている。また、医療や介護サービスにつなげるのが難しい相談などには、認知症サポート医や作業療法士などの専門職によるチームで、自立生活への初期支援を集中的に行っている。それとともに、市内4カ所の地域包括支援センターの認知症地域支援推進員が、身近な場所で相談支援を行っている。



アンダーパス(下地地内)

道路冠水時における事故 防止対策

問 台風による大雨や頻発する集中豪雨により道路の冠水被害が多く発生している。被害を防ぐ対策の一つとして、災害時に「メロウねっとな」などによる道路冠水の情報配信は可能か。

答 道路冠水時の通行規制等の情報配信は重要であるため、実施について検討していきたい。